



「必要なものを
必要に応じて
必要だけ適切に」

そこで豊田くんは
自分が仕事で培った知恵を
キャベツ作りに応用しようと思ってみました。

「ものづくりが育んだ
技術と心意気を武器に
農業が直面する困難に
果敢に立ち向かいました。」



昔々、三河の国に
豊田くんという男の子と
田原さんという女の子がおりました。

豊田くんは車をつくり
田原さんはキャベツをつくら
生活していました。

暮らし方は違うけれど
二人はとても
仲良しでした。



このトヨタ方式をこり入れた
新しい農業システムは

後に「ジャストインタイム農業」と
名づけられました。

※この物語はフィクションですが
ジャストインタイム農業は
実現を目指しています

作：小坂 和彦
(東京大学 農学部 4年)



ある日豊田くんが
田原さんの畑に遊びに行くこ
なにかがポロポロになっていました。
サルヤイノシシの仕業でしょうか？

しかしそれは田原さんが
自らつぶしたものでした。
キャベツがこれすぎたため
産地廃棄をしないこ
価格が暴落し
赤字になってしまつたのです。
豊田くんは大きなショックを受けました
そして思ったのです
「ホウに何かできることはないだろうか……？」

ガーン